

TAKE FREE

01 2021
Spring

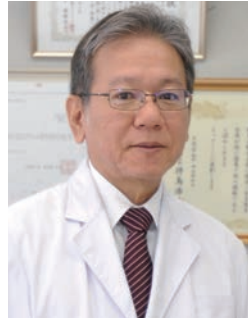
ハートライフ病院が発行する医学生と研修医のための情報誌

LIFE

創刊号

温かさがまさに「ハートライフ」

ハートライフ病院
外科ドクター座談会



LIFE 創刊について

ハートライフ病院院長の佐久川廣です。この度、医学生や医療従事者向けの雑誌「LIFE」を創刊することになりました。LIFE は病院名にも使われていますが、その意味は人生、生活や生命など多くの概念が含まれます。この雑誌「LIFE」では生活を意識しています。病院で展開される人々の生活を紹介し、職員が懸命に働く姿を表現できればと思っています。

当院では毎年科別実績報告会を行っています。各科が何を得意としているのか、同じ職場内でも知らないことが沢山あります。本誌では、この先生はどういう治療を専門にしているのか、看護師が特に力を入れて取り組んでいるのは何か、そういった内容をスタッフや現場の写真を交えて、生き活きと紙面に紹介したいと思います。それによって医学生や院外の医療従事者に当院を PR し、さらに院内の職員にも他部門の取り組みを知って頂きたいと思っています。

病院は多くの専門職の集まりです。知識労働者と言われる専門職がお互いに協力しなければ、良い医療は提供できません。ハートライフ病院はトップダウンのピラミッド型ではなく、チーム医療を重視したボトムアップでフラットな組織を目指しています。病院の理念は当然大事ですが、それだけで十分とは言えません。自ら考え、答えを出していくことで職員は成長していけると思います。フラットな組織では他職種や他部門の仕事を理解し、お互いに情報交換することが大切です。

季刊誌「LIFE」は病院長からの指示ではなく、ある職員の提案を基に準備し発行することになりました。ハートライフ病院における医療への取り組みを、医学生や院内外の多くの医療従事者に知っていただきたいと思っています。

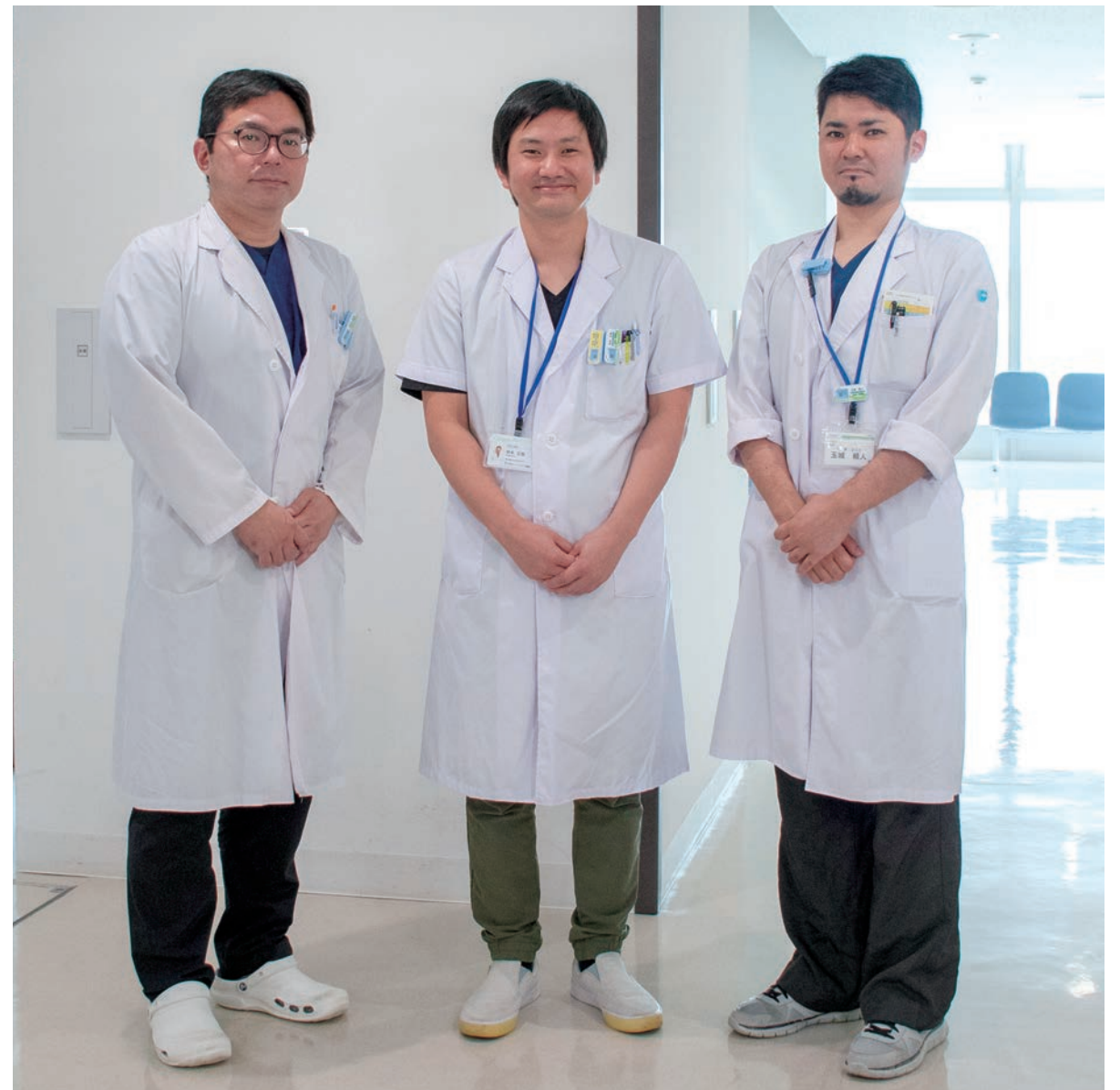
社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 院長
さくがわ ひろし
佐久川 廣

温かさがまさに「ハートライフ」

ハートライフ病院 外科ドクター座談会

国吉 史雄 × 仲本 正哉 × 玉城 頼人

医師を目指す医大生にとって、初期臨床研修の病院選びはとても重要なもの。自分に合う病院なのか、研修現場の環境や研修医を取り巻く環境はどうか、先輩や指導医の先生方は話しやすい雰囲気なのか。当院で初期臨床研修を終えて勤務する外科医達に、当時のことを含めて本音でいろいろと語り合ってもらいました。現在の活動やワークライフバランスなど、医師生活のリアルがわかるトークの中から病院見学だけではわからない素顔のハートライフ病院が見えてきます。



“実習をスタートさせてみると、
外科で学ぶことがとにかくおもしろい”

選んだのは「ちょうどいい病院」 偶然の巡り合わせから外科医の道へ

仲本：今日はドクター3人でいろいろ語りましょう。よろしくお願いします。

国吉・玉城：よろしくお願いします。

仲本：まずは国吉先生に。初期臨床研修先にハートライフ病院を選ばれた理由を教えてください。

国吉：病院の規模が大きすぎず小さすぎず、ちょうどよかったから。規模が大きすぎると研修医の数も多くなり、担当する症例を結果的に取り合っ
て十分な症例が経験できない可能性もある。うちの病院は適度に症例があって研修医の数が多すぎないのもいいですね。

仲本：僕は大学在学中にクリニカルクラークシップがあり、病院実習でハートライフ病院に希望を出しました。当時から医学生に人気の病院で、いざ実習が決まり、みんなでジャンケンをして何科を回るか決めましたが、そのとき不在だった僕は希望者のいない外科に回されることになったんです。

玉城：僕は仲本先生が医学部野球部の3つ上の先輩で、他の2人の先輩達もみんなハートライフ病院にいたので、「やりやすそうだし楽しそう」と実習先も初期臨床研修先もすぐに決めました。

国吉：仲本先生は、最初は行きたくなかった外科に行った後、何があって外科医になったのかな？

仲本：医大生の頃はみんな外科が大変と思っているみたいで、特に僕は外科医の父が忙しかったイメージが強く、学生の頃は外科医になるつもりはなかったんです。ところがいざ実習をスタートさせてみると、外科で学ぶことがとにかくおもしろかった。手術はもちろん、病棟や外来などさまざまな仕事があり、すごく興味を持ちました。

国吉：やってみたらイメージが変わった？



仲本：はい。それまで医師になることが少し怖い部分もありましたが、その時の経験で自分が本当にやりたいことや目標が初めて明確になりました。だから初期臨床研修もハートライフ病院に希望を出しました。

国吉：偶然の選択がその後の進路を変えたんだね？

仲本：実はこの話には後日談があって。その頃からハートライフ病院は初期臨床研修の希望が多くて競争が激しかったんです。僕はきっと採用され

ないだろうなと悩んでいたら、たまたま当時の外科部長に「実習がとて楽しかったです」とお話を
する機会があって。「仲本くんがこのままハートライフ病院で外科医として働いてくれるなら、初期臨床研修に推薦してあげようか？」と言われたんです。それで運命が変わりましたね。

国吉：仲本先生に見込みがあったからだと思うよ。

仲本：ホントですか？うれしいです。僕の例をぜひ医大生の実習病院選びとか研修先選びの参考にして欲しいですね。最初は希望していない科でも、



なかもと まさや
仲本 正哉 医師
那覇市出身。29歳。既婚。1児の父。琉球大学医学部卒。在学中は医学部野球部所属。当院での初期臨床研修を修了後、現在は外科専攻医3年目。当院で多くの手術を担当し、次年度より琉球大学病院 外科医局人事の一環で北部地区医師会病院へ転動予定。



くによし のぶお
国吉 史雄 医師
那覇市出身。44歳。既婚。琉球大学医学部卒。当院での初期臨床研修を修了後、外科医として勤務し動続13年目。多くの研修医の指導にもあたる。ハートライフ病院 DMAT（災害派遣医療チーム）の一員として活動。2016年には熊本地震への出動経験もある。



たまき よりと
玉城 頼人 医師
宜野湾市出身。29歳。琉球大学医学部卒。在学中は医学部野球部所属。初期臨床研修医2年目。当院での初期臨床研修を修了後、2021年4月より琉球大学病院外科専門研修プログラムに進み、当院で勤務予定。

※ 2021年2月（座談会実施）時点のプロフィールです。

Interview

意外な出会いや発見があるかもしれません。もちろん、玉城先生みたいに最初からブレずに外科医を目指しているというのもすごいと思う。

玉城：ありがとうございます。僕は父が消化器外科医というのもあって、学生の頃からずっと外科系がいいなと思っていました。中でも開腹手術から腹腔鏡下の手術までいろいろやってみたい！手術が絶対楽しそうだなと思ったんです。今年4月から始まる外科専門医研修では消化器外科に進もうと思っています。

国吉：私が外科を選んだのも玉城先生と同じで、手術が楽しそうだなと思ったから。大変な面ももちろん多いけれど、やっぱりおもしろいんだよね。

研修医時代の苦労もいい経験に。救えなかった命を必死で次に活かす

仲本：研修医時代の学会発表は印象に残っていますね。忙しい業務の間にデータを揃えたりスライドを作ったり。指導医の先生と何度も修正のやりとりをして、準備は大変だったけどすごくいい経験になりました。

国吉：大きな学会になると、研修医の先生のための発表の場も用意されているからね。

仲本：県外に行けるので旅行気分もあり、夜は現地のおいしいものやお酒を楽しんだり。上の先生方とは普段は食事やお酒を飲む機会もほとんどないので、それも楽し

第120回日本外科学会定期学術集会で発表した「治療に難渋した腹壁癒着ヘルニアの一例」で医学生・研修医セッション賞を受賞した。ハートライフ病院では学会発表の場も多く設けられている。



仲本医師のオペの様子。すぐ横では玉城医師が研修中。仲本医師は2021年の1月は全外科医の中で最もオペ件数が多い。

みでした。

玉城：僕も学会は楽しみなのに、コロナ禍で学会発表がオンラインになってしまい本当に残念です。

仲本：そういえば、玉城先生が「日本外科学会」でオンライン発表したものが賞を取ったよね？ホントすごいよ。おめでとう！

玉城：ありがとうございます。令和2年8月に「治療に難渋した腹壁癒着ヘルニアの一例」という演題で、「医学生・研修医セッション賞」を受賞しました。術後の傷が治りにくく、さまざまなことを試さないといけない大変な症例があったんです。

国吉：よく頑張ったね。こういう機会にどんどん挑戦してさらに成長してもらいたいね。

玉城：はい！国吉先生は研修医時代、どんなことが印象に残っていますか？

国吉：もう13年も前だけど、医師になって初めて当直をした時のことかな。いきなりICUの重症患者さんの処置をすることになってね。もちろん上の先生と一緒にやったんだけど、採血の経験もまだないのに、いきなり動脈にラインを入れたり、血管にチューブを入れたり。指示されるままに無我夢中で処置をしました。これまで各科を回っている学んできたのに、現場で対応するのはやはり勝手が違って、新人にとっては大きなプレッシャーでしたね。

玉城：聞いているだけで緊張します。仲本先生は研修医時代にどんなことが印象に残っていますか？

仲本：救った命よりも、救えなかった命の方がやはり心に長く強く残りますね。相当落ち込むし、なかなかそこから気持ちを切り替えられないことも多いです。

国吉：辛いことも起こるのが医療の現場です。気持ちを切り替えることは難しいけれど、私はなるべく引きずらないように心がけています。よく寝てなんとか気持ちを切り替えて、次の患者さんに向き合えないとね。



仲本：はい。僕は救えなかった命を必死で次に活かしたいから、ずっと臨床に残り続けていると思います。次に同じ症例の患者さんが来たら、今度はああしよう、こうしようって考え続けています。外科医になってまだ3年足らずで、日々模索中です。

当直明けでもお昼 12 時には必ず帰宅 ワークライフバランスが実現できる帰宅ルールに感謝

仲本：現在、研修医は初期研修の2年目7人、1年目3人の計10人で、研修中に各科を回っていると、他の科の先生方もみなさん研修医の名前や顔を覚えていて、声をかけてくださいます。

玉城：すごく安心感がありますよね。

仲本：僕は初期研修後にそのまま勤めているので、他の科の先生方もいまだに声をかけたり、仲良くして下さる。うれしいし心強いです。病院全体がアットホームというか。まさに「ハートライフ」ですよ（笑）。

玉城：確かに！（笑）。みなさん本当にあったかいです。

仲本：臨床経験30年以上のベテラン外科医師である花城直次先生は、僕とは年齢も経験年数も離れていますが、琉大医学部野球部OBで野球部時代はキャプテンも務めていらしたそうです。僕はとても親しみを感じて頼りにしています。

国吉：それは心強いね。

玉城：うちの病院は研修医には特に優しいと感じます。僕は各科を回る時に「内科を通常より少し長い期間回りたい」とか「画像診断もやりたいから放射線科も回りたい」といった要望を叶えてもらえたのも、とても良かったです。

国吉：現在、日々の業務ではどんなことを行っていますか？

仲本：僕は消化器外科領域の手術がメインで、虫垂炎や胆のうの手術をはじめ、大腸がんも腹腔鏡下の手術を積極的に行っていますね。

国吉：腹腔鏡下の手術は最近、うちの病院でも多くなってきたね。

仲本：それもあってか、他院に比べると外科が大変！忙しい！というイメージはあまりないです。前院長の奥島名誉病院長が当直明けはお昼までに帰れるよう徹底してくださったおかげです。

国吉：「外科医が無理なく勤務できるように」という配慮はありがたいよね。

仲本：当直明けに手術が入ることはうちの病院で



“病院全体がアットホームというか、まさに「ハートライフ」ですよ（笑）”

はないので安心です。

国吉：医師にとって、心身共に万全な状態で手術に取り組むのが何よりも大事なことからね。

玉城：僕はまだ研修中で今は産婦人科にいます。産婦人科の外来や手術などが入っているのと、毎朝内科のカンファレンスに参加するのが日課です。研修医は当直が月に7回ありますが、当直明けの時間がしっかり守られていて助かります。

仲本：当直明けや休日などがしっかり確保できるのは、ワークライフバランスを保つ上でも大事ですよ。

国吉：オンとオフの切り替えは大事。そういえば仲本先生の奥さんは薬剤師だったよね？

仲本：はい。別の病院ですが、今は育児休暇中。うちの子もやっと1歳になりました。

国吉：奥さんが復帰したら、家事とか子育ては分担？

仲本：うちは僕が仕事に集中できるよう、子供が生まれる前から家のことはすべて妻がやっていて、家事も子育ても妻におまかせです。僕の担当はゴミ出しのみで、妻の理解と支援には本当に感謝していますね。

玉城：僕も結婚したら家事はしないかなー。

国吉：うちは夫婦で料理を一緒に作ることもあるし、家事は私もひと通り何でもします。

玉城：すごい！国吉先生は料理もお得意なんですね。

国吉：得意かどうかは別として、結構やりますね。

仲本：でも僕も最近、時間がある時は子供の離乳食を食べさせたり、消化器系が専門なので、オムツを替えながら医師目線でウンチチェックをしたり。少しずつ育児にも参加していますよ。

玉城：僕は独身なんで休みの日は家でんびり休養したり、スカパーで野球やバスケットボールを観戦したり。完全にインドア派です。国吉先生は、お休みはどう過ごされていますか？

国吉：私は親戚の別荘の庭で、夫婦でただひたす



ハートライフ病院で初期臨床研修を修了した国吉医師は、研修医や後輩たちからの相談も多く人望が厚い。



公立久米島病院の見学時に久米島マラソンにも参加したときの様子。忙しい研修の合間に研修医同士の親睦を深める息抜きにもなっていた。



仲本医師の指導を受ける玉城医師。

らたき火を眺めています。

仲本・玉城：え？たき火ですか？

国吉：そう。炎を見ているとなんだか癒される気がします。普段忙しい外科医だからこそ余暇を楽しむ時間は大事。うちの病院ならそれがちゃんとできますね。

元気になった患者さんの笑顔に 医師としてのやりがいや喜びを感じる

国吉：私は、ひとりの人が生まれてから人生の最後を迎えるまで、治療を含めて「すべてを診る」ということに医師としてのやりがいを感じます。2人はどうですか？

仲本：自分の手術で患者さんが元気になることですかね。中城村の地域性が高齢の患者さんが多く、高齢だとがんなどの手術を躊躇しがちなんです。説得して手術を受けてもらい、完治して元気な笑顔を見せてくれる時は本当によかったなと思いますね。ご家族の喜ぶ顔にも幸せな気持ちになります。

玉城：僕も早くそんな体験をしたいです。ところで、医師に最も求められる資質って何だと思いますか？

国吉：いろいろあると思うけど、私は「人の話がちゃんと聞ける」ということが一番大事だと思っていますね。患者さんはもちろん、一緒に治療を行っていく関係者の意見をしっかり聞くことができない人は、この仕事には向いていないと思う。治療はひとりで行うわけではないからね。

玉城：肝に銘じます。

仲本：僕は医師としての能力に加え、トラブルにならないことも大事かなと思っています。そのためには患者さんの立場になって感謝や誠意を持ち、辛くても投げ出さないこと、患者さんを笑顔にできるような心を込めた対応を心がけています。

玉城：すごく参考になりました。研修医として2年目でまだ修業中ですが、今後も先生方をお手本に誠実に仕事をしていきたいです。

仲本：ハートライフ病院に望むことってありますか？

国吉：研修医達は業務以外の雑用をお願いされることも多く、どうしても労働時間が長くなりがちなので、できればもっと手当を出してあげてほしいですね。

玉城：ぜひよろしくお願いします（笑）。

仲本：研修医への手当が増えたら病院に若い先生が残ってくれますね、きっと。

玉城：若い先生が増えると新人研修医の相談がしやすく、進路も見つけやすくなるのでは？

国吉：最後に、医師を目指している皆さんに何かメッセージはありますか？

仲本：これから医師を目指す医大生には、「学生時代の実習や初期研修の間に本当にやりたいことを見つけよう！やりたいことが仕事だったら楽しいし、辛くても乗り切れると思うよ！」って伝えたいですね。

玉城：僕は「自分の好きなこと、楽しそうだと思うことにどんどん挑戦しよう！」かな。

国吉：みなさん、ハートライフ病院で一緒に成長して行きましょう！

“完治して元気な笑顔を見せてくれる時は
本当によかったなと思いますね。”

来たれ！若手医師 ハートライフ病院外科紹介



外科 DATA

医師数	
外科医数	16名
(非常勤医含む)	
主な手術症例数 (2019年度実績)	
食道がん手術	7件
食道アカラシア	8件
胃がん手術	14件
腸閉塞	9件
胆嚢摘出術	119件
(うち腹腔鏡下)	110件
膵がん手術	7件
ヘルニア手術	165件
(うち腹腔鏡下)	154件
大腸がん手術	65件
(うち腹腔鏡下)	36件
虫垂切除術	51件
(うち腹腔鏡下)	50件
肛門手術	84件
乳がん手術	41件

当院の外科は常勤医10名、非常勤医6名を擁し、消化器外科を中心に乳腺外科や一部小児外科を扱っています。2010年から日本外科学会が主導して始まったNational clinical database（以下NCD）は日本の外科手術の95%以上を網羅した手術データベースとして世界に誇れるデータベースですが、当院の昨年のNCD症例数は933件と同規模病院と比較して遜色のない手術症例数です。症例数で多い疾患としては、胆石症（胆嚢炎や胆嚢ポリープを含む）、大腸がん、鼠径ヘルニア、肛門疾患、急性虫垂炎、乳がんなどです。内視鏡手術の割合が多いのが特徴で急性腹症の緊急手術も多く扱っています。超高齢社会の到来で高齢者の手術、周術期管理に日々奮闘しています。術後補助化学療法や進行再発がんに対する薬物療法も担当しています。

この様な多忙な業務の中でも県内外での学会発表も盛んで、さらには琉球大学医学部の学生臨床教育にも携わっています。外科系の当直も担当していますが、皆で助け合いながら当直翌日の午後は完全フリーとし、ワークライフバランスの向上にも取り組んでいます。

また、若手外科医の教育として、日本消化器外科学会の若手育成セミナーである「JESUS: Japanese skill education for young gastroenterological Surgeons」に2名と、日本臨床外科学会の「次世代の臨床外科医のための特別セミナー」に3

名を当院から派遣しました。

また、外科専門プログラムは全国に230以上ありますが、当院は琉球大学外科プログラムだけでなく、東京女子医大プログラム、大阪大学プログラムにも参加しており、外科専攻医として3つのいずれかのプログラムに進むことが可能です。

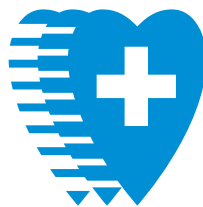
医療は日進月歩であり、内視鏡手術はもとよりロボット手術が急速に広まりつつあります。ロボット手術の世界シェア7割を超える「ダヴィンチ」の特許が昨年切れ、開発競争が激化し、国産初の手術支援ロボット「hinotori」は実臨床に入ってきます。ロボット手術が日常的になる時代がすぐそこにきているのです。

論語に「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」とあります。手術に例えると「手術を知っている外科医より手術が好きな外科医が上である。手術を楽しむ外科医はさらに上である」という意味になります。好きこそ物の上手なれ、のさらに一歩進んで、楽しむ領域が最上という意味です。術中や術後合併症に直面して苦悩することもあるでしょうが、「手術を楽しむ境地」を目指して我々指導医とともに頑張ろうではありませんか。

“楽しむ境地を目指し共に頑張ろう”

外科部長 みやひら 宮平 たくみ 工





社会医療法人かりゆし会

ハートライフ病院

所在地 〒901-2492

沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地

ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/hospital/>

病床数 **308** 床 診療科数 **31** 科

特徴

当院は地域医療支援病院であり 24 時間の救急医療を提供。
31 の診療科に加え、各種専門外来、内視鏡センターや予防
医学センターのほかにも沖縄県内で骨髄移植を完結できる
「無菌治療センター」などの専門治療を行う中核病院です。



採用情報



臨床研修医 HP